

令和4年度学校評価報告書

令和5年(2023年)3月30日

北海道枝幸高等学校長 辻 芳 恵

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 今年度の経営方針

(1) 確かな学力を育成するために、学習の質を高め、評価の充実に努める。
(2) 保護者、地域と連携し、社会性を身に付けた生徒の育成に努める。
(3) 生徒の適性、進路希望に応じた、きめ細やかな進路指導に努める。
(4) 安全・安心な学校環境の整備に努める。
(5) 地域と連携した教育活動の充実、学校の情報発信の工夫により、信頼される学校づくりに努める。
(6) 組織の共同体生徒情報共有の充実により、生徒の成長を支援する。
(7) 全教職員が資質・能力の向上と業務の効率化を意識した働き方に努める。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
めざす生徒像 めざす学校像	コロナウイルス感染予防のため引き続き、制約の多い年となった。学校祭は実施できたが、例年どおりとはいかなかった。来年度は制約の緩和が予想されるが、生徒教員ともに経験が浅く正念場になることが予想される。タブレットが通常授業にも運用され、先進的な取り組みが継続できた。ホームページや新聞掲載などで広く発信することにより、多くの町民に浸透してきていると感じるが、保護者や地域の方々が学校に来る機会が少なく、アピールの方法を模索する必要がある。 「えさし探究」を柱としたふるさと教育をさらに充実させていく。	・ICT をフルに活用し、欠席生徒にも授業ができているのは、素晴らしく新しい。 ・生徒は、よく理解して上手に活用している。 ・生徒の活動や学校の取組について興味をもってもらえており、成果として結果がでている。
改善方策	(1) 多様な課題を抱えた生徒が増えておりサポートの仕方について研鑽を深めていく。「生徒一人ひとりに寄り添い」「生徒のために何ができるか」を念頭に教育相談、支援に力を入れる。 (2) 望ましい将来像を持たせながら、地域から信頼される将来の社会人・職業人としての資質・能力を育成するために、より地域の実態や保護者の要望を踏まえたビジョンを共有し、計画的かつ継続的な教育活動を推進する。 (3) 「えさし探究」を本校の目玉として継続的に発展させていく。	
家庭・地域との連携	(1) ホームページのアクセス数は1日平均約581件であり昨年度より平均100件増加している。引き続き学校通信、各紙報道を併せて活用し、適切な広報に継続して努める。 (2) 緊急連絡の際に生徒保護者向け一斉メールが有効に機能した。	・町内外から興味を持っていただけており、枝幸高校のホームページのアクセス数も前年より極端に多いのはすばらしい。 ・HP更新頻度も増やすと一層効果は高い。学校関係者以外にも関心を持って見ていただけている声も聞く。
改善方策	(1) ホームページのタイムリーな更新。生徒の状況や保護者説明会での報告などを印刷物の活用と併せて行い、効果的な情報発信を継続して行う。 (2) 地域の教育ニーズを把握しながら、社会に開かれた教育課程の実現に向け、保護者と地域が枝幸高校応援団として生徒を支援して頂けるよう、信頼に値する教育活動と引き続きいの協力を依頼する。 (3) 行事後の懇親会、生徒の様子との連絡などの日常的な情報交換の機会を増やし、保	

	<p>護者と学校との連携の必要性を認識してもらうよう努める。また、教職員も地域の一人であるという意識をもち、取組への参加を積極的に行っていきたい。</p>
--	---

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<p>(1) 保護者、教員の評価は概ね良好と考える。特に保護者において「家庭での学習習慣の確立」「意欲を引き出し、能力を身につけさせる学習指導」についての評価が上がったのは励みになる。</p> <p>(2) 生徒アンケートの「家庭学習指導」、「興味関心に合わせた授業の工夫」について否定的回答があることを鑑み、進路目標の醸成と具体的な取組（研究授業計画など）見直しと改善の必要がある。一方で、タブレットの活用が通常となり「個に応じた指導」を充実させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Ipad の活用により生徒は、家庭学習に取り組みやすくなっている印象で、弱点を克服しやすい環境と思う。 • 公営塾の活用の成果も大きく、進学について評価できる。 • アンケートの項目が少し難しいと感じるため、答えやすい内容になると、なお良い。 • Ipad の更新についても、先を見越した対応を視野に入れていただき、今後も期待したい。
改善方策	<p>(1) 生徒の学習状況（内容、時間、方法等）や学力、進路希望を適切に把握し、具体的な学習方法と課題を提示しながら、校内に設置してある「公営塾」との連携を深める。個に応じた丁寧な学習指導に努める。タブレット端末を有効活用することで、課題の補てんを実践する。</p> <p>(2) 教員による先進かつ効果的な取組を共有する機会（研究授業）や少人数グループでの相互参観と合評の実施、校外への研修会参加と成果の共有等、授業の質的向上に向けた実践を継続する。</p>	
生徒指導	<p>(1) 「生徒の部活動や行事、ボランティアへの主体的取組」については、コロナの影響で、教員評価は低く、生徒自身の主体性を引き出す教員によるしかけを来年度は積極的にすすめる。</p> <p>(2) 校則の改定（頭髪、アルバイト、制服規程など）を行った。時代に合った規則の制定に今後も務めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 行事は重要である。新しいコロナ後の行事の在り方について地域住民としても模索していきたい。HPの掲載は、学校のアピールにも繋がる。 • アルバイト解禁は、町民に貢献していると言える。また、校則の改定を行ったことは町民や生徒・保護者にも良いアピールといえる。
改善方策	<p>(1) 生徒が課題意識を持って取り組める活動の充実を図るため、他者を思いやれる協調性のある集団と、人間関係づくりへのメッセージ等、生徒主体の活動場面を設定・計画していく。ボランティア活動への参加も促していく。</p> <p>(2) 人間関係に係る生徒の変化を見逃さないよう、校内外の教育相談機能を強化し、連携や役割分担、保護者との情報共有を密にして、問題行動の未然防止、心のケアの充実を図ることで、強い信頼性を構築できるよう意識していく。</p> <p>(3) 生徒会を主軸として、生徒が主体的にルールを守る目線合わせの機会を年間の節目ごとに設定し、自己指導力の高まりを実感できる場面を作っていく。</p>	
進路指導	<p>(1) 進路講習や面接指導について、就職、進学ともに昨年度から引き続いて一定の評価を得られていると考えられる。特に教員の評価では「学年段階に応じた進路指導」について高い評価である。分掌を始めとして、学年そして全体としての目線合わせと意識付けが奏功した結果と見ることができる。</p> <p>(2) 公営塾との連携についてうまくいっている。今後もより一層効果的な協</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 進学指導は、学校の取組と成果が分かりやすく評価できる。就職については、時期が違うために、進学指導よりは、若干目立たない印象であるが、外部の講師等を招き説明会の機会があり就職希望の生徒にとっては、安心な取り組みであると言える。

	働体制やシステムづくりに努める。	
改善方策	<p>(1) 教員と生徒、保護者さらに「公営塾」が、希望進路を叶えるために必要な力を共有し、今年度整備してきた必要な実力養成を見据えた指導（講習、面接、小論文等）の計画・実施を改善していく。生徒個々の進捗を全体共有し、生徒個々の進路希望を把握し、時機を見据えたサポートの場面を確実なものとする。</p> <p>(2) 学年による生徒の発達段階に応じて、進路選択にあたっての興味と可能性を把握し、多面的な視野から自己実現を図れる進路指導を行う。そのためには、日常の学習活動を軸に、進路学習や面談を通じたガイダンス機能の充実を図っていく。</p>	

3 添付資料

- | | |
|--------------------------|------|
| (1) R4 学校評価に係る保護者アンケート集計 | 1部2葉 |
| (2) R4 学校評価に係る生徒アンケート集計 | 1部2葉 |
| (3) R4 学校評価に係る教員アンケート集計 | 1部2葉 |
| (4) R4 学校評価に係る評議員アンケート集計 | 1部2葉 |